

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 康誠会 グループホーム ケア・ガーデンおおの
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	岐阜県揖斐郡大野町南方二度桜191番地
記入者名 (管理者)	森長 千恵子
記入日	平成 20 年 11 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者1人1人が生きがいのある生活を維持するためには、ホーム内の家庭的な環境に加え、地域との交流も必要だという事を具体的に理念に置いています。事あるごとに理念を原点に考え職員間で確認しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者1人1人に対する、あらゆる場面での対応方法については理念だけで意見の統一を図るには無理があるため、ミーティングのときに折に触れ、まずは、何が大切なのか、「もし、自分だったら」「安心して、気持ちよく、自信を持って生活してもらうには」など、対応に迷いのあったときは理念の思いを共有し取り組んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に対して、活動時における地域住民と交流時の利用者の様子をお伝えしたり、散歩時の地域住民や、ボランティアとの交流でも、グループホームの役割や地域交流の場を維持していきたいという気持ちをお伝えするようにしています。小中学校との交流、民生委員さんとの交流などを大切にしており、少しずつグループホームのあり方が地域に浸透していくように働きかけています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、喫茶、買い物などにて挨拶を交わし気軽に立ち寄ってもらえるように声かけしています。来て下さった方には継続的に遊びに来て頂けるようお伝えしています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所でお祭りを開催し、地域住民の方に遊びに来ていただいたり、地区の中学生のボランティアの受け入れをしたりして地域住民との交流を大事にしています。自治会には法人全体にて加入しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	実際、自分の家族や周囲に認知症の方がいないと関心が充分でない現状のため、今後、ホームに支障のない範囲で、地域全体に「グループホームとは何か」「認知症とは、対応方法など」の啓発をすることで、認知症になっても安心して暮らせる町作りへの貢献ができると良いと考えています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、自己評価に取り組むことで職員各自が自分の仕事に対する姿勢の振り返りの機会となっています。また、あらためて、仕事に対して初心に戻らせてくれる機会にもなっています。評価結果にて認められた所には更に自信が付き、改善点については、検討を行い改善に向けて取り組んでいます。外部評価がホームの質の向上・職員の意欲向上につながっております。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議で現在の入居者状況・活動報告を行い、前回の会議以降に変わりのあったこともお伝えし、当ホームの運営を知っていただく貴重な機会となっています。また、前回の助言や質問事項についての経過も伝え外部の意見が入る事で更なる質の向上につながっています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム及び認知症を少しでも多くの地域住民に知っていただく為にはどうしたら良いか連絡を取り、事業所で作ったポスターを役場に掲示してもらったり、ホームで催しのあるときに担当の方に声をかけ、地域の人を誘って来て頂いたりする事などから共に取り組んで頂くような体制作りを努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、職員皆で理解を深めるようにしています。が、まだ、該当する入居者や、今までの実際に対応した例も少ない為、今後も定期的に勉強会を開くことで、いつでも、職員皆が対応できる体制作りを努めていきます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員によるホームでの勉強会を行い、虐待防止について関連する事理解を深めています。また、ホームでの職員の勤務環境にも配慮する事で、いつでも職員が利用者の気持ちを配慮して対応できるようなホーム作りをしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービスの質の向上のために職員育成の重要性を認識しており、各職員の職務への理解度・経験に応じて計画的に研修の参加をすすめている。事業所外の研修だけでなく、法人全体の勉強会が定期的に行きながらかも常に学んでいく気持ちを維持していくよう学習の機会を作っています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域のグループホームの管理者同士で集まる機会があり、今後のグループホームと地域の関係のあり方についてなど話し合う機会が定期的に行き、その際に今、困っている事や運営状況についても話し合える有効な場となっています。職員においては、同法人のグループホームと検討会を開催したり昼食の試食に行ったりと、まだ頻度的には少ないですがサービスの質の向上のために職員が外部の同業者と交流する事で仕事に対する意欲が向上されるような取り組みに努めています	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は限られた職員数の職務の中で常に利用者の気持ち・表情の動きに気を配り対応している為ストレスのかかりやすい状況であると認識しています。そのため、日頃から、職員の表情・疲労具合に配慮し悩みを把握できるように努め、利用者や離れ休息をとる時間を持ちリフレッシュして仕事に入られるような環境作りに努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者の快適な生活の為に、職員にとっても働きやすい環境・意欲を継続できる環境が大切です。半年に1度は自分の頑張った事などを報告する用紙の提出があり職員の努力や成果を認める機会があります。また、労働基準法に従い労働条件を確実に整備している事はもちろん、職員の健康に配慮し健康診断も定期的に行っています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、今までの生活環境・本人の思い・本人が何を必要としているのかを把握します。その上で信頼関係を作っていく為に本人の気持ちを受け止めていく事から始めるようにしています。それができれば、サービス利用となっても少しでも環境の変化によるダメージを最小減にとどめ、スムーズに適応していただけるようになることを考えています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の現状、困っていることなど話をゆっくり聞き理解把握することでご家族の希望を整理し、当事業所がどんな施設かどのような対応ができるのか伝え、再度ご家族間で話し合っていたり、また、事業所側と早期に話し合いをもつようになっています。ご家族も不安な状況であると思うのでまずはご家族の不安の軽減につながるよう支援します。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご本人と家族の思い、現状を把握した上で、今、何が必要なのか見極め早い段階でご家族と相談をすすめ、ご本人・家族が今後の対応に困る事のない様にしています。必要なサービスへの情報紹介・仲介を含め対応します。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族のホーム見学から始め相談に移っています。相談時に、ご本人の思いを間接的にでも確認しながらご本人に会う機会も作り徐々に段階を経て、利用開始前に職員と少しでも顔なじみになれるようにしてから入居に入っていくようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者も含め同じホームで共同生活する仲間として支えあって助け合って生活しているという気持ちを持っていただくようにしています。利用者からの何らかのサイン(笑顔を含め)を受けとる事で職員は励みになる事もあります。職員も、より利用者に対してさりげなく支援する事で少しでも自信を持ってもらえるようにということを考えて対応しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方は、利用者の方がホームで生活している事を感謝される事が多いですがその気持ちに甘んじることなくご家族の利用者に対する本来の気持ちを率直に出して頂けるように利用者の様子、生活ぶりを小まめに伝える事で家族も継続的に利用者の把握をできるようにしています。そして共に利用者を支える一員としての関係作りをしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族のつながりを維持できるように利用者の気持ちや様子を伝えていくと共に面会以外にも外出などの交流の機会を作り家族利用者間の気持ちのつながりが深まるように活動を通しての家族が利用者に関われる場を大切にしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人から入居前のなじみの地域や人間関係についてお聞きし職員皆が把握するようにしています。また、ホームに入居する事で今までの人間関係が途切れないように入居前の状況と同じ感覚で遊びに来ていただけるように声かけしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症や難聴などから職員の仲介なしでは利用者間の仲間意識・支えあいの場が少なくなっている状態ですが、仲間意識をもてたときの個々の充実感はとても大切だと認識しています。職員は常に利用者個々のストレスを最小限にする対応に努め、活動・役割を通して職員支援の下、仲間意識を持てる環境作りに心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用後もご家族・ご本人が困っている事がないか気にかかけ、お会いした時にはお声をかけお話ししたりして関係が途切れないように、ご家族からいつでも心配事など相談しやすいような関係維持に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちの表出困難な利用者の方に対しても、その人が笑顔を見せてくれた時、何が良かったか職員皆で考え、その笑顔を継続できる対応に心がけています。気持ちを話してくださる方に対しても、できるだけ多くコミュニケーションをとり、ゆっくり話を聞く時間を作り、思いをかなえられるように対応します。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る前にご家族から、これまでの生活歴・好きなもの・嫌いなものなどお聞きし、ご本人ともお話をすることで現段階での今までの事をお聞きし、その人の対応の手助けとなっています。利用時に把握できる量には限りがある為、利用後も、ご本人・家族・知人の面会を通して一人ひとりの把握に努めています。全部を知らなくてはいけないということではなく、その人の今後の生活を支えるのに役立つ情報なので、話を聞くときも聞いてからもプライバシーの配慮に気をつけます		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者1人1人が生き生きと安心して生活できることが大切だと認識しています。その為に職員は、日頃から、手を出すことより見守りをする事で利用者のできることを見極め、利用者には分からないようにさりげない職員の支援で自信を持ってもらえるように対応しています。また、日頃から1日を通しての生活状況を把握することで、体調不良などの変化のサインに気付けるように配慮しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望、家族・本人から得る情報、本人の状態など、その人の生活に際して必要となる事柄を皆で共有し話し合い作成しています。その人が安心して気持ちよく生活するために、日々の状況など、ご家族にも小まめに伝え面会時も大切な意見交換の場としています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアサービスの実施中も、利用者の状態は少しずつ変化するため、利用者の精神状況、身体状況を日々の記録に残したり、職員間で申し送る事で利用者の状況把握に努め、ご家族・関係者に伝え相談し、話し合いの場を持つことで見直しに役立っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌・個別の記録・個々の体調面など記録し経過を残すことで職員皆が利用者1人1人をあらゆる面から把握できるようにしています。また、その日々の記録を職員皆が共有することでケアプランの見直しにも役立っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、経過観察の必要な疾病のある利用者においても、かかりつけ医による診察・往診がいつでも受けられる体制になっています。また、入院となった場合でも、病院と連絡を小まめにとり、入院によるダメージが最小限に済むよう早期退院に向けて受け入れをすすめていきます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	生きがいを持って生活していただく為には地域の中で暮らしているという実感を持つことが大切と考え、利用者との交流のあるボランティアの方々に来てもらったり地域の学校の行事に参加させていただくことで地域とのつながりを大切にしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当施設を含め、当法人の各事業所単位では解決できない問題や困難事例に対しては様々な職種、学識経験者などと協議し最善の解決策を模索していく会が定期的に設けられています。このことで私たちの得て不得手を把握するばかりか、他のサービス選択も含め利用者本位の適切なアドバイス体制が整っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員もメンバーとなっている事で利用者の困難事例や状況についての相談など連絡の取りやすい関係となっています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医はいますが、入居前から受診している医療機関のある人は特に医療機関を変更する事はせず、定期受診し内服も処方してもらっています。また、ホームのかかりつけ医も、一人ひとりの利用者の健康状態を把握しており、体調不良時にいつでも診察してもらえる体制をとっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を活用し個々の排泄状況の把握に努めています。認知症であってもその人の表情や仕草からのサインに配慮しトイレでの排泄を維持できるように心がけています。その際の誘導の声かけにも配慮します。オムツにおいても1人1人に合わせた使い方をしています。昼と夜、季節、個々の状況変化において日々見直しの必要性について考えます。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の表情やその日の過ごし方などから、体調面を考慮したうえで、利用者の気持ち感じとって声をかけたりしています。また、実際に希望を確認し、気持ちよく入浴してもらえるように対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人1人の体力や、その日の活動状況、ここ数日の様子などから全体的に把握し、希望にも合わせながら休息を促しています。また、日中の活動に意欲的に参加できるように生活リズムを崩さぬよう、夜間の排泄支援についても個々にあわせ対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人1人にあわせて、自信の持てること・張り合いになることを日々の生活から探り、見守りや支援が必要でもそれが本人に分からないように支援し、利用者が最大限に力を発揮できるようにしています。また、楽しみごとなども把握し、個別に対応することで充実した時間を持ってもらえるように対応しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の考え方や能力に応じて対応しています。現状はほとんど職員管理ですが、買い物するときなどは、自分でお財布からお金を払うという、安心感・自信につながるように対応に配慮しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の風・空気を感じることは気分転換や意欲の活性化につながると考え短時間でも1人1人に合わせ外出・外に出る機会作りを大事にしています。それは、利用者だけでなく職員も同じだと考えており、1日中狭いホームの中で過ごすことによるストレスに気付いてもらい、利用者と職員が外でふれあう事にも意味があると考え実行しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	小まめにコミュニケーションをとる事で、本人の希望を把握し、家族との話し合いのもと、可能であればご家族も一緒に外出します。墓参りや買い物、自分の慣れ親しんだ家への外出などに対応します。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は認知症の進行によりいないが、家の心配をして元気がない方には、こちらから声をかけ、ご家族と電話する事で安心していただく様に対応しています。家族・兄弟・知人からの手紙を渡したり、返事についても、返事を書くことが嫌にならないように家族や知人に説明し簡単に返事をできるように支援しています。手紙を渡すのも、混乱の無い様、渡すタイミングを見極めます。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間を設けず、家族の方にはいつでも来られるときに来て頂けるよう配慮しています。ご家族との時間を邪魔しない程度に入居者の近況を挨拶もかねて職員も声かけさせていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で勉強会を開き学習すると共に、資料をホームに置く事で各自いつでも振り返りできるようにしています。また、一人一人の状態変化時など折に触れ、利用者に対するケアについての考え方で身体拘束についても念頭に入れ話し合うようにしています。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は2階のため安全面の為から必要時以外は施錠していることが多いが、日々、利用者一人一人の把握に努め、出て行かれる人がいれば、職員がそつと後から付いていきその人が何を求めているのか様子を見たり、それを申し送りその人の理解を深めるようにしています。まずは、安全面に配慮した上で、その人らしさを支える様対応しています		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録などは食堂にて行いますが、記録のみに集中してしまうことの無い様、管理されているという感情を持たれない様、その間もコミュニケーションをとるなどして、さりげなく利用者の表情や行動に気をとめ、その場その場で対応できるようにしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状況に応じてカミソリやはさみなど、食べ物も含め居室に置いてある方も見えますが、どの人が何を持って見えるかなど把握するようにしています。漂白剤などは入居者の目に触れない所へ保管し包丁は使用ごとに数の確認をして詰め所管理としています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	想定される事故においてマニュアルを作成し、職員皆が知識を深めると共に、日頃から、ヒヤリハットを活用していくことが利用者の把握・業務改善につながることを職員に伝え日々のケアに活用し事故予防につなげるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体での定期的な勉強会へ参加し緊急時の対応に知識理解を深めると共に、慌てずとっさの時にも対応できるようホーム内においても、ミーティングの中にも含め再確認の場としています。マニュアルも作成しいつでも復習できるようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設の同法人事業所と共に消防署の協力の下、避難訓練、消火訓練を定期的に行っています。日頃から、災害時の対応について話し合いを持つことで今後もいざという時に慌てることのないようにしていきます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の希望・家族の意向をふまえた上で、ご本人の為にはどんな生活や対応が良いのか話し合います。転倒や誤嚥性肺炎のリスクなどある場合も過度に制限をつけることなく、ケアプランを基に経過など状況変化あるごとにご家族と話し合いの機会を持ち、リスクに配慮しながらもその人らしく生活できるように考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日対応し日々の状況を把握しているからこそ、「何かいつもと違う」等の職員の気付きを大切にしています。バイタルだけでなく、いつもと違う行動や表情など気づいたことがあれば職員間で申し送り、書面にも残すようにして経過も分かるようにしています。また、日々、気をつけるポイントについてもケアプランに付け加えることで早期対応に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容(目的、量、副作用)を全職員が把握できるように表を作成しており、日頃の状況で変化のあった場合は、医師に報告し薬の量の減量・終了につながっています。また、定期薬については、毎食ごとのシートに作る作業も全職員ができるようになっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃の排泄状況を把握したうえで、その人の食事・水分摂取状況、活動量、排泄環境と照らし合わせ、1人1人に合った対応をしています。便秘対策のために小まめに水分補給すること、日課に体操を取り入れること、繊維質の食材をおいしく提供することなど薬剤を使用する前に生活の見直しを大切にしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員皆が口腔ケアの重要性を理解しています。食後だけでなく、寝起き・食前もうがいにて口腔内をきれいにすることを大切にしています。自立支援の面からも個別に対応を変えています。夜間は入れ歯をはずし洗浄剤につけています。また、ご家族との相談のもと歯科往診を受けている利用者もみえます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士によりカロリー計算されており、毎食の残食も記録に残し身体状況・排泄状況と合わせ把握するようにしています。また、栄養面でも気をつけながら皆さんにおいしく食べていただけるように食器・声かけ、疾患に対する特別食など個別に対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で感染症委員会を作り当ホームもメンバーとして委員会の活動に参加すると共に、学習会の参加、併設クリニックとの情報交換を通じて健康維持に努めています。マニュアルも作りっぱなしにせず、毎年、定期的に流行する感染症を早めに勉強会に取り入れることで、再確認、早期対応できるようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所においては栄養士の助言も参考にして、食中毒予防の為、マニュアルを作成し職員間でも統一し実行しています。調理前の手洗い、布巾・まな板の漂白し、清潔に配慮しています。冷蔵庫は利用者それぞれに食べ物を保管しているので定期的に賞味期限の確認や、清掃をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームは2階で併設施設ということもあり、外観にやや固い感じはありますが、手作りの看板を置いたり行事時には(正月・クリスマス)入りロドアに飾りつけて明るい雰囲気の中でホームに入りやすいようにしています。また、季節の花も育て玄関に置いています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者1人1人活動意欲を妨げないように、不快な音、職員の行動・声の大きさ・声かけの仕方から環境面など、利用者に関わっていく全てのことに配慮するよう気をつけています。また、居心地良く過ごしていただく為に、昔からずっと感じてきた生活・季節の雰囲気を皆さんの五感を通して感じて頂けるように、日々利用者の方と関わっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に数箇所、椅子やソファを置きくつろげる場所作りをしています。テラスにもテーブルを置き、天気の良い日には花を見ながら喫茶を楽しみます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃使用する茶碗や湯のみ、衣類、筆記用具、家族の写真・位牌等様々ななじみの物を持ってきていただき、できる限り入居前の生活との変化が少なく安心して過ごしていただけるように配慮しています。	○	今後もひき続き、入居時、後において、ご本人・ご家族と話し合いながらご本人の希望するものを理解し提供していきたいと考えています。また、ホームで作成したものや、写真なども飾りホームでの生活もその人らしく生活できる、居心地良く感じられる環境作りを続けます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	健康維持の目的にて、その日の気温・湿度に気を配りながら、換気をしています。換気の時間、及び、直接に風が当たらないよう、窓を開ける位置にも気を配ります。利用者に声をかけをしたり、手足の冷えを確認し1日を通して対応します。利用者の活動意欲を妨げないように、さわやかな環境を維持します。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所の調理台は通常よりも低めの高さで、使いやすくしてあります。また、整理棚には何が入っているか分かる様にラベルを貼り、茶碗の底には名前を書き、自立支援につながっています。浴室やトイレは、利用者皆さんの状況に合せ、今までのものを改修しました。シャワーチェアも2台用意し、身体状況を考慮し対応しています。利用者皆さんの状況を把握して職員皆で話し合いおすすめします。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	少しでも心地良く生活できるように、そして少しでもその人の今ある力を発揮できるように、個々の生活行動状況や気持ち(考え方)に合わせて環境面の配慮をしています。(夜間、幻覚のある人には鏡を布で覆ったり、また、居室の分からなくなる人にはドア入り口にその人の分かる目印を置いたり)		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者一人一人が馴染みある暮らしの中でリラックスして過ごせるように、ウッドデッキで草木を見ながらお茶を楽しんだり、畑の仕事をしたり、ベランダに出て布団を干しながら景色を眺めたり、1日の生活の中で気持ちよさを感じる瞬間を少しでも多く感じていただけるように対応しています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム開設当初から利用していただいている利用者さんもみえて、体力的にもベッドの時間の増えている方々もおられます。外出など回数的には減ってしまいますが、職員は、その時その時の段階で利用者さんの今の希望に耳を傾け、少しでも一人ひとりの利用者さんが喜びを感じられる時を見つけようと寄り添う姿勢を大切に対応させていただいております。 「一人ひとりの体調面や精神面にあわせ、皆さんが気持ちよく暮らせるような生活リズムを大切にする」、「家族的な雰囲気の中で個性を大切にする」という関わり方の大切さを職員皆が実感しており、職員間でも思いやり、利用者さんと職員が同じ目線の暖かな環境を感じていただけたと思います。医療面においては、クリニック、老健も併設しており、総合病院との連携も整備された環境となっております。利用者さんの不安・苦痛による影響を最小限にすることを第一とし終末期においても、御家族、御本人の状態、医師、栄養士などあらゆる職種間で話し合いの場をもち、御本人の思いを尊重し、方向性を決めております。